春日の婿押し

ー春日市の民俗文化財ー

○ 婿押しってどんな祭り？

春日市を代表する伝統行事である「春日の婿押し」。前年に結婚した新郎・新婦を祝うために、毎年成人の日の前日の夜に春日神社で行われる祭りです。詳細な由来は焼失により分かっていませんが、何百年も続いているといわれています。

全国的にも類をみないこの行事は、平成7年（1995）に国指定重要無形民俗文化財に指定されています。都市化が進んだ今でも、その伝統を固く守り、次世代へと継承しています。

○ 婿押しが行われるまで

春日の婿押しは秋ごろから会議やリハーサルを重ね、三期組合が中心となって準備を進めます。

婿押しの前日、婿押しを行うための準備として春日神社の境内の飾り付けや御池の清掃、左義長伐りを行います。当日も本番までの間に、宿の行事の準備やお汐井とりの準備等を行っています。多くの人の力で婿押しが行われています。

○ 婿押しの流れ

1. 子どもの樽とり

春日地区の育成会などに入っている男子が締め込み姿になり、お汐井とりの後、宿におかれた樽を奪おうと三期組合の青年と競り合います。

2. 左義長点火

子どもの樽とりが行われた後、神社鳥居前の積み上げられた、高さ約3メートルほどになる左義長に火をつけます。点火位置は毎年異なります。

3. 宿の行事

会館内で厳粛なしきたりにしたがって、①開会の辞、②三期組合代表挨拶、③氏子総代挨拶、④自治会祝辞、⑤花婿挨拶、⑥花嫁熨斗出し、⑦前酒、⑧婿と婿抱きの盃、⑨閉会の辞と進めます。

4. 若水祭

まず拝殿で宮司のもと神事を執り行います。その後、神酒樽と若水の入った桶が鳥居前に運ばれて行き、宮司から青年団長に神酒樽が渡され、それを一気に飲み干します。

5. 樽せり

団長が樽を片手に左義長の周りを3回周り終わると、凍てつく寒さの中、氏子一同は樽をめがけて御池に飛び込みます。樽を割ろうと幾度となく蹴り、樽が割られると、五穀豊穣と開運を招くといわれる木片を奪い合います。

6. お汐井とり

樽せりが終わると、一同は掛け声をかけながら九郎天神社まで走り、御汐井（砂）をつかみ、境内まで戻り、御汐井揚石にあげ、拝殿に向かっていきます。

7. 婿押し

婿押しには「拝殿揉み」と「空揉み」があります。花婿と婿抱きを囲み、掛け声とともに回りながら押し合います。拝殿揉みが終わると、火の見櫓跡の下まで空揉みで移動していきます。

8. 若水祝い

火の見櫓跡の下で花婿と婿抱きを輪の中にいれ、揉み合いながら若水置台の下に移動します。花婿と婿抱きを囲み、手拭を手にし、祝い唄が終わると若水が花婿に向けて打ち掛けられます。

9. 千秋楽

若水祝いのあと、一同は手拭を振り回しながら、左義長の周りを駆け巡り、年長代表の音頭で手打ちを3回行い、行事を終えます。

まめちしき　祭りを執り行う「三期組合」

祭りの主体は、春日神社の16歳から45歳までの氏子で組織される「三期組合」と呼ばれる年齢階梯組織です。春日地区の男性は古くからこの三期組合に必ず入るしきたりがありました。「春日の婿押し」の担い手であったからこそ、三期組合は崩壊せずに、現在まで続いてきたのではないでしょうか。

制作・発行：春日市　協働推進部　文化財課